

2022 年度

(公財) 北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース 3 級審判員研修会① 実施報告書

平石 暁史

都道府県審判トレセン ユース 3 級審判員研修会①

○ 2022 年 8 月 26 日 (金) (Zoom Meeting を用いた事前研修)

【タイムスケジュール】

19:30 開講式 - 20:00 大会レギュレーション確認 - 20:30 講義 1 「8 人制サッカー審判法理論」
21:30 移動手段・集合時間確認・事前研修終了

【参加者】 審判員 2 名 高橋陽斗 (十勝 3 級)・千葉吏恩 (札幌 3 級)

【インストラクター】 平石 暁史 (北海道審判委員会育成部部員)

佐藤 祐介 (北海道審判委員会育成部部員)

○ 2022 年 8 月 27 日 (土) (札幌市)

【会場】 札幌サッカーアミューズメントパーク

【タイムスケジュール】

11:00 審判員集合 - 11:00 事前説明「北海道トレセン夏季交流大会 U-12 について」 - 12:00 昼食
13:00 ウォーミングアップ・審判法の確認 - 15:00 審判実技「北海道トレセン夏季交流大会 U-12」
18:00 競技終了・振り返り・フィードバック - 19:00 審判員解散 - 20:00 ホテル到着

【参加者】 審判員 2 名 高橋陽斗 (十勝 3 級)・千葉吏恩 (札幌 3 級)

【インストラクター】 平石 暁史 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部員)

佐藤 祐介 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部員)

古曾部統太郎 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部長)

○ 2022 年 8 月 28 日 (日) (札幌市)

【会場】 札幌サッカーアミューズメントパーク

【タイムスケジュール】

8:30 審判員集合・ウォーミングアップ - 9:30 審判実技「北海道トレセン夏季交流大会 U-12」
12:30 競技終了・昼食 - 13:30 振り返り・フィードバック - 14:30 審判員解散

【参加者】 審判員 2 名 高橋陽斗 (十勝 3 級)・千葉吏恩 (札幌 3 級)

【インストラクター】 平石 暁史 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部員)

佐藤 祐介 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部員)

古曾部統太郎 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部長)

研修をふり返って

○ 参加審判員 高橋陽斗 (十勝地区所属 3 級審判員)

今回のユース 3 級審判員研修会に参加して、最初の試合の前半では 1 人審判制というもの初めての経験ということもあり、どのように動けばいいのか、どのポジションにいれば全体を見やすいのかなど、分からないことがたくさんあり、とても戸惑いました。インストラクターの方々からアドバイスをいただき、自分自身どのように動けばオフサイドまで見られるか、どのタイミングでサイドチェンジをすれば全体を見渡すことができるのかということのを頭の中でまとめて、少しではありますが試合を担当するたびに上達することができました。また、自分が今なぜこのポジションにいるのか、な

ぜサイドチェンジをしてプレーを追いかけにいくのか、位置取りの根拠を持って動くということにより考えて行動することが自分にはまだまだ足りない所でありましたが、次のプレーを予期・予想をするということを意識することで、自身の弱点を克服することができました。

今回の研修は、まだまだ自分には足りないものが多いのだと実感することが出来た研修会でした。学んだことを今後の審判活動に活かして、より上達することができるよう努力していこうと思います。このたびは本当にありがとうございました。

○参加審判員 千葉吏恩（札幌地区所属3級審判員）

今回このような研修会を初めて参加させていただきました。全体的に学ぶところがたくさんあり、とても良い経験をさせてもらいました。まず僕が今回の研修会で大切にしていたことは【ポジショニング】【走力】【自信】です。以上の3つのことをテーマに参加させていただきました。

【ポジショニング】では、僕は8人制サッカーの審判経験がなかったので、初日の1試合目は、対角での動きが全くできずに11人制サッカーの動き方になってしまいました。2試合目をインストラクターの平石さんが担当してくださり、そのおかげで動き方も分かってきてオフサイドの監視やゴールラインやタッチラインのin、outを監視できるポジショニングができたのが、研修初日の収穫でした。翌日の試合では、フィールドの中央に入りすぎて、タッチラインやファウルを見極めることができましたが、一方でオフサイドの判定において説得力に欠けてしまう場面ができてしまいました。インストラクターの佐藤さんのレフェリングを見させていただき、佐藤さんは外に外にと開き、ときには自らタッチラインから出て判定を行う場面もありました。最終試合ではお二人から教わったことを生かしてレフェリング行ってみたところ、とても良いポジショニングが取れて手応えを感じました。

具体的にオフサイドの判定に自信を持てるようになり、ラインの判定もしっかりと見れるようになり、ファウルも起こりそうになると争点との距離を縮めることができたり、起こりそうな事象を予期・予測して動いたりすることができたと思います。

【走力】では、オフサイドラインを監視している場所から、その後のプレーの展開を読みながら逆サイドのオフサイドラインまで走ったり、攻守の切り替えに対してはステップングしたりして対応しながらスプリントをかけることができたので良かったです。

【自信】では、とにかくミスを恐れずにやりきるという点を意識しました。ファウルなのかノーファウルなのか、スローインはどちらのボールなのかなど、とにかくできる限り一生懸命に判定を試みるということを具体的に心がけました。

このたびの研修会は、自分にとって吸収することがたくさんありました。同時に自分にはまだまだ改善すべき点がたくさんあるということを改めて感じました。これからまだまだ勉強したりトレーニングしたりする時間はあると思うので、今回の研修で教わったことを活かし、1試合1試合を大切に自分のレフェリングを磨いていきたいと思いました。また、このような研修会を開いて頂きましたことに感謝いたします。本当にありがとうございました。

○インストラクター 平石暁史（ユース3級審判員研修担当）

コロナ禍でやむを得ず開催を断念していた本研修会を3年ぶりに開催することができました。開催にあたり、審判研修のための試合を提供いただいた北海道サッカー協会技術委員会の指導スタッフの皆様のご理解ご協力に、改めて感謝申し上げます。また、ユース審判員を推薦くださった各地区協会と、全面的にサポートいただいた各地区協会審判委員会の皆様に心からお礼を申し上げます。

本来ならユース3 審判員の研修の場として、道内の高校生3 級審判員の集合研修であるべきところ、2名の審判員の参加しか叶えることができず、担当者としては大変心苦しく思うところでありま
す。ちょうど高校選手権の地区予選の日程と8人制サッカーの試合日程が重なり、改めて審判だけで
なくプレーヤーとしての立場でサッカーに取り組んでいる高校生の研修を開催する前任者の苦労を実
感しました。

しかしながら、少数ではありましたが、このたびの研修は実り多い研修になったと振り返っていま
す。それは、審判員が日に日に、もっとという試合ごとに、自身の課題を乗り越え、はっきりと見て
取れるようなくらいレフェリングを上達させることができたからであります。毎回のことですが、審
判員が研修を通して変化していくことは、指導者として審判員を育てる喜びを感じることができ
ることです。実技研修を進めるにあたり、「北海道トレセン夏季交流大会U-12」のご協力をいた
だきました。スタッフの皆様には趣旨をご理解いただき、審判員の未熟なレフェリングに対しても温か
く見守りいただきました。選手の育成と審判員の育成を同じ場、同じ視点で実践できたことは本当に
感動的な貴重な経験でもありました。指導者としての立場から審判員に対してお話をさせていただ
くこともたいへんありがたかったです。

今回は3月にできる限り道内のユース3 級審判員が集えるような研修会を開催させていただきたい
と思っています。縦のつながりも大切ではありますが、ユース審判員の横のつながりを拓けていた
くことも研修会のもつ意義と考えます。高校生審判員の輪を広げ、同じ目標をもった若者たちが目を
輝かせながら励んでもらえるような研修会を企画実践していくと同時に、審判技術や知識の習得だけ
でなく、審判員としての資質や人間性を育てる場としても活動していきたいと思えます。

